

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて 巡りたくなる街並みを考えるためのアイデア	草津市
アイデア名(注2) (公開)	共創型景観まちづくりで、人とまちを健幸に！		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	Code for Kusatsu 景観部		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	13名		
代表者情報		森田紀美	
メンバー情報	氏名(公開)	八木良人、奥村美佳、山口陽子、中西雅幸、山岡正明、清原真結、居川拓海、溝内辰夫、伊藤祐聖、大塚佐緒里、山口洋典	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて巡りたくなる街並みを考えるためには、地域の人々が自分たちの地域に誇りを持ち、景観をどうしたいかを来訪者の目線や、文化財や歴史などの様々な専門家の意見を参考に主体的に考え、景観まちづくりに参加してもらうことが必要である。しかし人口減少でも持続可能なまちづくりを目指した市の計画の説明会を開催しても参加者が少なく、大きな広がりとなっていない。

<解決アイデアの内容>

解決アイデアを考える前に、市の課題である【誇りを持つ】の定義について、「市民意識調査」の結果や「市民調査に基づく「住みやすさ」に関する調査研究」などや専門家の意見を参考にメンバーで議論を重ねた。

その結果、「市民意識調査」からは地域に愛着や誇りを持つ人が少ないことがわかった。また「市民調査に基づく「住みやすさ」に関する調査研究」からは多種多様な市民が愛着を持っている場所を見える化し、これまで以上に接する機会や理解する機会を積極的に提供していくことが提言されている。そして、アーバンデザインスクール前期での「歩いて巡りたくなる地域のアイデア」での議論や専門家からは「市民が関心を持たないのは、市の計画であり、地域には小さなさざ波のような活動があり、それが景観や街並みを形成している。」との助言をいただいた。

そこで、これらの調査結果、提言、助言を参考に改めて景観、あるいは街並みを下記に定義しなおした。

「景観や街並は、なんらかの設計図を作り、それに向けて自然の風景や建築物を配置して作られるのではなく、そこに暮らす人々の日々の生活やさざ波のような小さな活動の積み重ねにより自ずと作られる。このプロセスにより、様々な人と人のつながりが生まれ、地域の人々の地域に対する愛着や誇りを持ち、住みやすい街がつくられ続ける。」

従って、訪れて、歩いて巡りたくなる美しい景観や街並の地域をつくるには、「地域の小さなさざ波のような活動を発掘・支援し、様々な人がつながりを新しく生み出す仕組みが必要なことがわかった。

続いて、この社会的サービスに必要な機能とアイデアを整理した。

#### (1) 活動発掘・評価する仕掛け

地域にある市民の自発的な多様な考えのなかで小さなさざ波のような活動を発掘し、その活動が地域の住みやすさを向上させ、良い景観や街並の形成に貢献していることを示す仕掛け。

##### ① 地域をよくする活動やその課題について語り合うワークショップ

地域の様々な人々から、地域での気になる活動や自らが取り組む日常の何気ない活動についてヒアリングを行う。

その活動について実践している方の夢や思い、目的、目標または課題などを聞き、対話を重ねながら、達成度を計る測定可能な項目を検討する。

##### ② 立体的に地域をとらえるための模型によるワークショップ

模型を作ることで、立体的に地域を捉えることで、その場所に隠れている思い出話や、昔からあるが何かかわからないが興味のあるものをお聞きして、その経緯をみんなで調べていただく。

##### ③ 活動に至っていない人の潜在的な思いの顕在化するための取り組み

\* 大学の研究者との連携し、積極的でない方の考え方や行動を研究し、地域づくりに関わる手法の検討

\* 各種団体、市役所主催のセミナー等で、アンケート調査に協力してもらおう。

④他薦・自薦を問わず景観のすくれた場所を思い入れのある写真、また地域の歴史や文化を知らながらまちあるきを行い、交流と地域資源の発掘を行う。

小・中・高校生のフォトコンテスト。自転車や徒歩で行ける場所、風景をエピソードとともに募集する。

⑤自分で住んでいる、また気になる場所を地図に描くによる小さな気になる活動や人為的営みの成果の収集



↑ マップに表示した例

・マッピングパーティーを開催し、街歩きをして、OSM（オープンストリートマップ）を使って地図。（ひとまちキラリまちづくり活動と連動）

・OSM で描いた地図に uMAP を使って、それぞれの草津の思い出の場やコミュニティの活動の場にピンを打ち、場に関する情報（思い出の内容、イベントに関する 5 W、写真、動画）などをアップする。FB やインスタグラムなどと連動させて、多くの人々がマッピングしやすくする。

・情報を見た人が、「いいね」や「コメント」を入力することができる。

・イベントやエピソードの時間を 24 時間制で示して、朝、昼、晩とコメントか文字を 3 種類で色分けする。

・時間帯の違う活動の人たちをつなげるため、フューチャーセッションをして、草津の未来や都市について語り合う。それによって、新たな活動へと広がっていく。

・模型づくりのワークショップなどを開催し、作るプロセスから出た草津の思い出話や、愛着のある場所などを聞く。

## （2）活動継続・創出する仕掛け

活動を継続させるとともに新たな活動を生み出していく仕掛け。

### ①まちづくりに関する対話型セミナーの開催

活動を持続するためや新たな活動を創出するための参考となる事例や考え方を学ぶため、現在まで実施している U D C B K 等のサードスペースにてまちづくりに関するテーマからの自由な意見による対話型セミナーを開催する。

### ②アプリを利用した広報の検討

活動を広報したり、支援者などのコミュニケーションを図るために必要な機能を提供する。

## （3）活動に参加する仕掛け

多様な活動への参加の方法をつくる。

活動に直接参加する活動参加、活動に役立つ情報の提供や SNS 等で活動を広める情報参加、活動に必要な資金や財・サービスを寄付する寄付参加などの機能を提供する。

## （4）地域を評価する仕掛け

自治体やまちづくり協議会などが小さなさざ波のような活動が地域全体の住みやすさの向上に与える影響や活動間の相関関係などを見える化するツールを開発し、社会的便益を計る仕組みをつくる。

地域全体の住みやすさに関する指標を検討し、収集方法や評価方法を検討するとともに、指標が悪化した場合の原因等を推定し、解決策を検討するために必要な情報を提供する。

○住みやすさに関する調査研究

○市民意識調査におけるさざ波のような活動がどのように影響しているかの調査項目の追加

○市のまちづくり活動の表示方法の表示方法変更

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

① 平成29年度 草津市市民意識調査 まちの住み心地や日常の生活行動など（まちの住み心地など）  
そう思うでは・・・「買い物をする環境が整っている」が最も多く26.5%、次いで「住宅地などの住まいの環境がよい」が21.7% ややそう思うでは・・・「住宅地などの住まいの環境がよい」が最も多く45.7%、次いで「買い物をする環境が整っている」が44.6%などとなっている。逆に「まちに誇れるもの（ブランド）がある」のあまり相応思わないが最も多く31.3%となっている・・・この誇れる場所がない指標が、まちづくりに興味に関心がうすいのではないかと仮説を立てた。

②



地域に「愛着を持てる場所」があれば、市民の定住促進にもつながるのではないか。そのためには、多種多様な市民が愛着を持っている場所を見える化し、これまで以上に接する機会や理解する機会を積極的に提供していくことが重要ではないか。

—市民調査に基づく「住みやすさ」に関する調査研究 P27—

③ 山口洋典先生にヒアリング実施

市民が愛着を持っている場所をマップに見える化して多様な方に関わっていただく手法についてインタビューをおこなった。先生からは、今回の課題にある景観には、生活時間や地域によってひとの行動により様々な営みが反映なされてできている。そこには積極的な人もいれば消極的な人もおられるが、何かしらの関わっておられ、その背景も大切にして汲み取ってほしい。何気ない小さな活動が愛着があればこんなことするだろうという仮説を立てて検討してみてもどうか。

④ いいコミュニティにはソーシャル・キャピタルが蓄積していることが分かる。しかし、そこには、強い自発性の発露というより、むしろ、ほかの人たちから影響を受け、他人を配慮する、やや控えめな様々な小さい活動の連なりが、一つの大波ではなく、たくさんのおさざ波のように存在するというプロセスが見られる。そのプロセスの中で、全体としては満足度が高く、成果の上がっている「いいコミュニティ」が成立している。



コミュニティのちから 遠慮がちなソーシャルキャピタルの発見

今村 晴彦・園田 紫乃・金子 郁容 著 慶応義塾大学 出版 P 1 5 7

⑤ 現在活動されている小さな活動へのヒアリング・インタビュー

\* U D C B K 南草津周辺でのまちづくり聞き取り調査

ベッドタウンや駅前マンションにその他の地域から移りすまれた方に実践されている活動を聞き取り

- ・ 駅前周辺 日曜早朝の清掃（平成6年の駅開業後継続実施をしている。住民も来訪者も快適にしたい）数名程度で実施しているが、ごみを無くす達成感と仲間とのつながりが人生を豊かにしており、続けている。しかしメンバーが固定しており、多くの方に関わっていただきたい気持ちがある。

- ・ 野路芋の生産（芋が育ちやすい土壌であることを活かしたい）  
 野路の特色の一つである作られる芋が甘いことを多くの方に知っていただきため、地域のイベントで焼き芋で配ることで、関心をもっていただき休耕田や家庭菜園でも作られるようになってきたり、まだ芋はできてきてないのと聞かれる人が増えるなど、地域の関心ごとになってきている。
- ・ 駅周辺の花壇づくり。  
 道路植栽を定期的に地域住民で設置・管理することで、駅前のマンション等のコンクリート構造物の中で、四季を感じていきたいと考えているが、活動をもっとしていただき、いろいろな方々に関わっていただきと感じている。
- ・ 東海道沿いの在郷軍人用地碑（先の大戦で軍人となる養成施設用地を地域で提供したことを示す）  
 字が薄れて何の石碑かわからなかったが、数年前に町内で改修されていたが気に留めていなかった。  
 U D C B Kでの東海道の歴史景観を活かしたまちづくりをするための、キーワードとして統一したデザイン案内看板設置するまちづくりを成安造形大の先生からお聞きし、看板や石碑には設置された背景があり、そのことをデザインに込めて次世代につなげていくことが大事であることを聞いたことで改めてその碑の意味を見直して意識が変わり、狭い道で交通量の多い道ではあるが、碑を傷めないように気をつけて通るようになった。

⑥ 地域風土との接触の程度が、地域愛着に正の影響を及ぼすことが報告されている。つまり、自転車や歩くことでより地域風土と触れ愛着が高くなる。また、地域愛着が高い人ほど、町内会活動やまちづくり活動などの地域への活動に熱心である傾向が示されている。

「地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究」 鈴木春奈 藤井 聡

東京工業大学大学院 土木計画学研究・論 文集2008

⑦ 人びとが生き生きと交流する都市は、人口規模や経済状況にかかわらず、いつも私たちを魅了する。公共空間に身を置いて、人びとを眺めることを楽しみながら過ごすとき、私たちの心は出会いの期待に満ちている。どんなに豊かな社会や優れた文化も、はじめはそうした小さな交流からはじまるのである。



ヤン・ゲール ビアギッテ・スヴァア 著

鈴木 俊治、高松 誠治、武田 重昭、中島 直人 約

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### 【STEP 1】

主体：行政 U D C B K + 都市計画課 【サードプレイスの提供】

- ① 小さなさざ波のような活動やエピソードの発掘を行う。←ワークショップ（マッピングパーティ等）
- ② 様々な活動の指標を見つける作業を行う。

モノ ・活動に必要な情報の提供する。

大学での知見の紹介

・会場・資料の提供 ・地図の提供

カネ 既存事業予算の組み替えで対応できる。

#### 【STEP 2】

主体：市民 地域の小さな活動をされている団体 + 行政 U D C B K + 都市計画課

#### ③ 活動に参加する仕掛け

モノ ・活動に必要な情報の提供する。

大学での知見の紹介

・会場・資料の提供 ・地図の提供

カネ 既存事業予算の組み替えで対応できる。

#### 【STEP 3】

主体：市民 地域の小さな活動をされている団体 + 行政 U D C B K + 都市計画課

#### ④ 活動を継続する仕掛け

#### ⑤ 活動を評価する仕掛け

個々の活動の評価については、地域の小さな活動をされている団体

市域全体の活動を評価については、行政で行う

小さな活動の評価の方法

モノ ・活動に必要な情報の提供する。

大学での知見の紹介

・会場・資料の提供 ・地図の提供

カネ 既存事業予算の組み替えで対応できる。